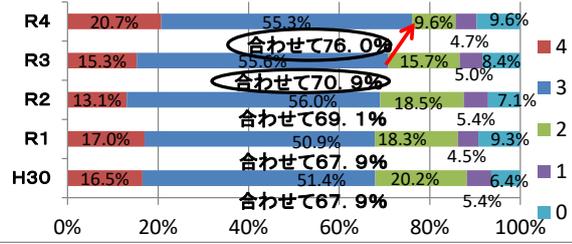


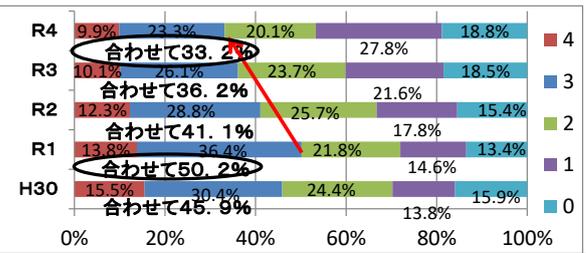
＜項目1＞●先生方は分かりやすい授業になるように工夫している



「①そう思う+②どちらかといえば思う」の割合が生徒肯定感を表していると考えたら今年急激な上昇。(昨年比+5.1%) ICTの取り組みの評価もあるか。

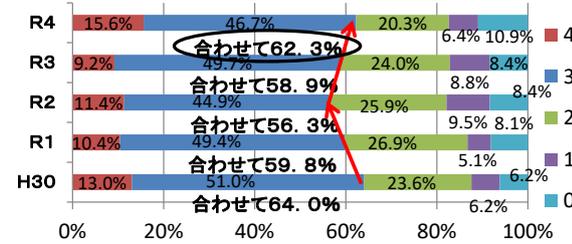
ただし、④思わないが今年も4.7%いる。分かりやすい授業は経営の根幹である。

＜項目6＞××朝の10分読書の影響で朝の集中力がアップしていると感じる



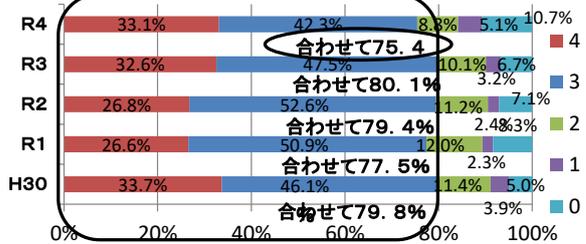
「④+③」の肯定感をみるとR1をピークに3年連続で下降している。③そう思わないの数字に肉薄している。この3年間の特殊な状況(コロナ)が影響しているのか、何らかの理由で睡眠時間が削られ集中できないのか、各学年での点検が必要である。やる以上は充実させる。

＜項目2＞●意欲的に授業に取り組めるような環境作りが出来ていると思う



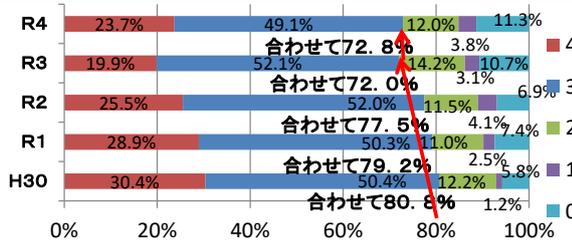
「④+③」の肯定感がここ3年間、ジリジリと増加している。「学習環境作り」は我々教師の責任。低下傾向にやとと歯止めが。授業内容の真摯な点検が必要。生徒満足度に大きく関わる。学校生活の大半は授業時間。授業が楽しくなると、学校に行くのが楽しくなるはず。

＜項目8＞●●学校は健康で安全な学校生活に配慮していると思う



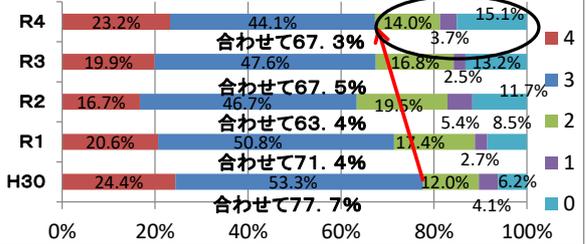
約8割の高い肯定感が毎年維持されているが、今年下がっているのはなぜか。コロナも3年になり、部活動で集団感染するようなケースもあったが重症化していないので、そういった意味では、前2年と比べると緊張感が足りなかったのか。コロナに加えてインフルエンザも流行の兆しがあるので、万全な対策が必要である。

＜項目3＞×学校は基礎学力の定着に力を入れていると思う



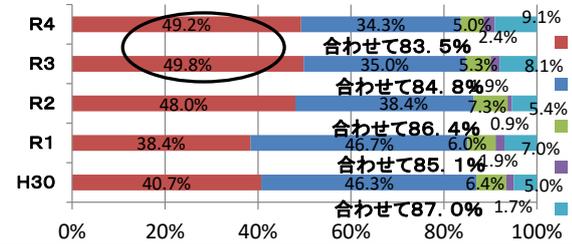
非常に良くない傾向がみられる。年々「生徒肯定感」が減少しているという事実。日々のマナトレや自学ノート、放課後学習会などが「学力定着のため」と認識されていないということ。なぜこのような取組をおこなうのか、丁寧な説明が必要かもしれない。加えて、その効果もデータを用いて常に分析把握したい。進路+教務の出番！

＜項目9＞×先生方は基本的な生活習慣が身につくように丁寧に指導をしている



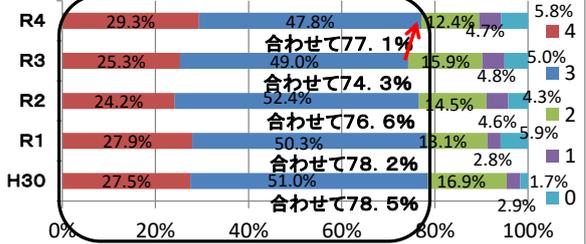
凸凹はあるが、「④+③」の肯定感が減少傾向にある。前年比-0.2%、4年間で10.4%の減感症の注意が中心になって、生徒たちとの関わりが希薄になっているのだろうか。否定的の意味を考えた。我々の生活指導が「丁寧ではない」とは？折々の指導場面で、校則や「なぜこの指導が必要か」等のくだいた説明が必要。

＜項目4＞●●本校の専門的な学習内容は充実していると思う



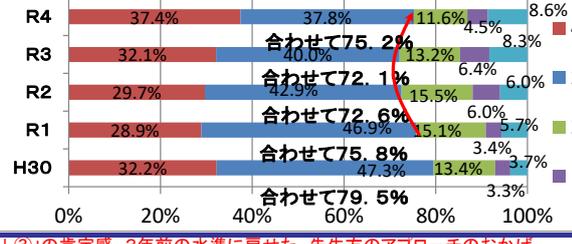
85%前後の肯定感が毎年安定して出ている。大変良好である。特にこの3年間は「そう思う」が48~49%と過去最大。これは、普通科音楽・保育コース食物・ビジネス・看護などに関わる専門科目が、科の特色をうまく出しているということか。「そう思わない」の数も少なく優秀だが、「わからない」が一定数あるのも課題である。

＜項目10＞○生徒は頭髪・服装をきちんと整えていると思う



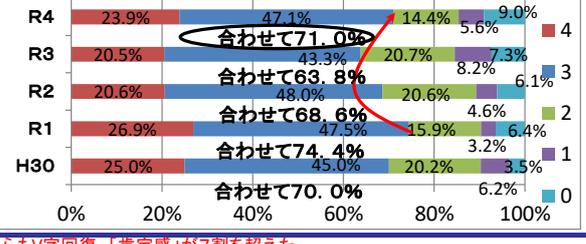
今年は少しだけ回復。学年団での指導が功を奏している。8割弱を常に維持しているのは先生方の指導が生きている証拠。感謝です。ふだんの声かけが大切。気づいたらその場で指導、学年間で報連相。

＜項目5＞○資格取得や検定合格に対し、積極的に指導が行われていると思う

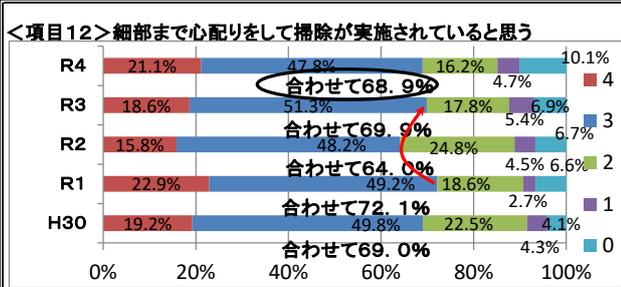


「④+③」の肯定感、3年前の水準に戻った。先生方のアプローチのおかげ。この指導は、各科での「生徒モチベーション」維持にも大いに関わっているものではない。結果公表を一昨年度末から始めているが、今後も良くても悪くても結果はすべて出してゆく生徒の挨拶を待たずに、教師沢から積極的に声を出そう。もっとよくなる。高い受験料である、説明責任が求められる。「顧客満足度」にも関わる。

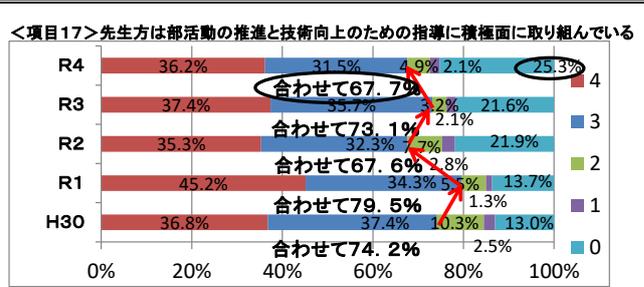
＜項目11＞○気持ちの良い挨拶が飛び交う学校であると思う



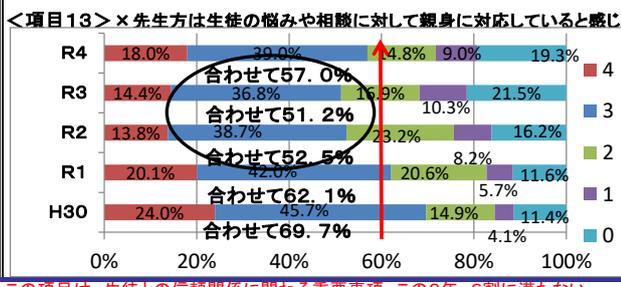
こちらもV字回復、「肯定感」が7割を超えた。ものごとの始まりをスムーズに、終わりをけじめあるものにするためにも…。生徒の挨拶を待たずに、教師沢から積極的に声を出そう。もっとよくなる。



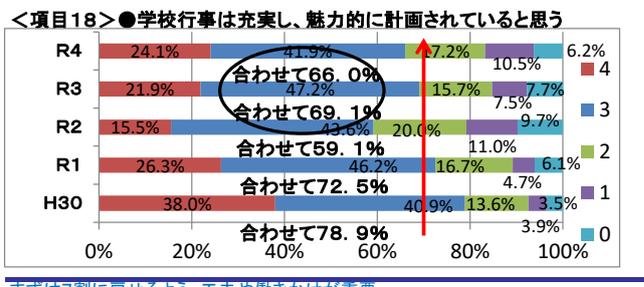
「④+③」肯定感減少に歯止めがかかった昨年から再び微減。
 黒板の隅々、サッシの溝、板目の間、机椅子の足 すべてが美しく整っているクラスがある。これに対して、掃除時間中おしゃべりに興じているクラスもある。子弟同行。
小さな乱れの内に修正する。我々の姿勢にかかっている。



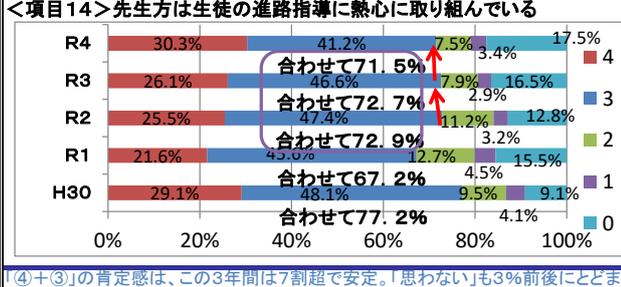
上がったり下がったりという傾向。
 生徒たちの技術向上や満足感が得られていないということなのか？
 ただし、「わからない」が4分の1というのはバランスが悪い。
 部活動加入率は8割を超えているというのに。



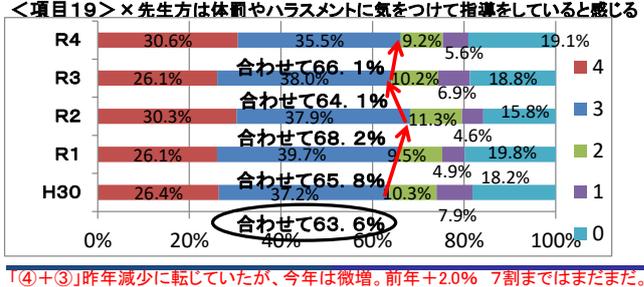
この項目は、生徒との信頼関係に関わる重要事項。この3年、6割に満たない。
 担任だけではなく、保健室やSSWなど色々な先生が関わるようにしていきましょう。
 注意すべきは、担当者任せになってはいけないということ。担任や部活動顧問に相談できなかったとしても、情報共有は大切。生徒の変化に敏感になろう。



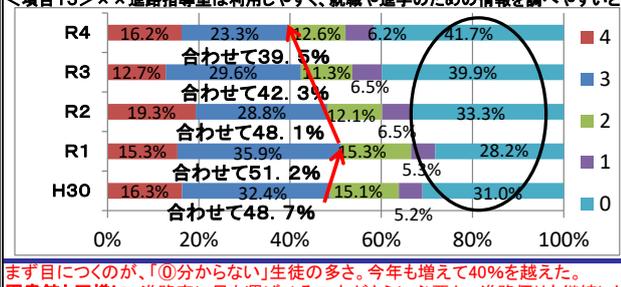
まずは7割に戻せるよう、工夫や働きかけが重要。
 行事は以前のように復活をさせてきているようではあるが、継承という点では生徒たちは何もわからない手探りの状態で取り組んでいることを忘れてはならない。自主性だけでは伝統は取り戻せない。これからが大切。



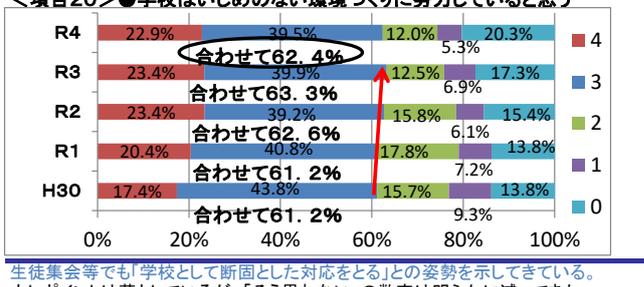
「④+③」の肯定感は、この3年間は7割超で安定。「思わない」も3%前後にとどまる。
 生徒学力把握等が少しづつ定着してきた。今後も継続が必須。
 生徒が自ら進路について、積極的に資料請求やオープンキャンパスに参加するなどのアクションを起こすためには、日常の生徒たちとの関わりで教師が話題に出していく。



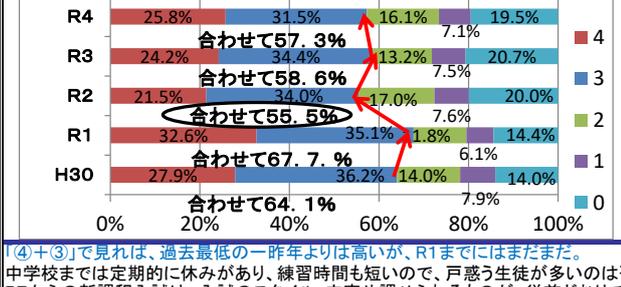
「④+③」昨年減少に転じていたが、今年は微増。前年+2.0% 7割まではまだまだ。
 メリハリを効かせた生徒指導、理由を丁寧に伝える生徒指導、互いにマナーを意識した生徒指導(暴言...)などなど、我々は常に心がけたい。
H29は 88.5% 改善できる項目。指導される生徒の気持ちに想像する。冷静であれ。



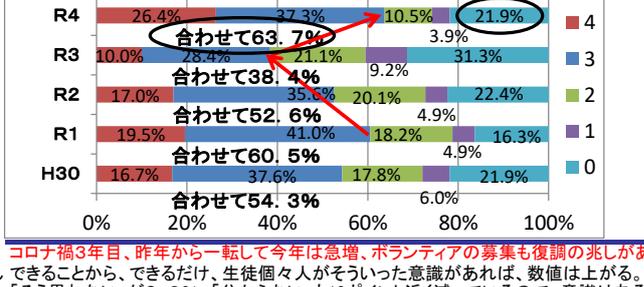
まず目につくのが、「①分からない」生徒の多さ。今年も増えて40%を超えた。
図書館と同様に、進路室に足を運ばせる工夫がさらに必要か。進路便りも継続したい。
 教室場面、集会場面など、折に触れて「進路指導」に関わる話題を生徒へ提供したい。
 どんな資料があるのか、どういう風に調べるのか、何が分かるのか...まず教師が知る。



生徒集会等でも「学校として断固とした対応をとる」との姿勢を示してきている。
 少しポイントは落としているが、「そう思わない」の数字は明らかに減ってきた。
 いじめが発覚したあとの毅然とした指導、解決に向かう姿勢でここも改善できる。

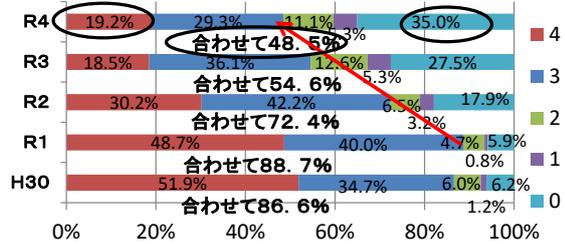


「④+③」で見れば、過去最低の一昨年よりは高いが、R1までにはまだまだ。
 中学校までは定期的に休みがあり、練習時間も短いので、戸惑う生徒が多いのは否めない
 R7からの新課程入試は、入試のスタイル・内容や課せられるものが、従前どおりでは
 対応が難しいかもしれない。自宅学習の充実。進路部からの情報は逃さないようにする。



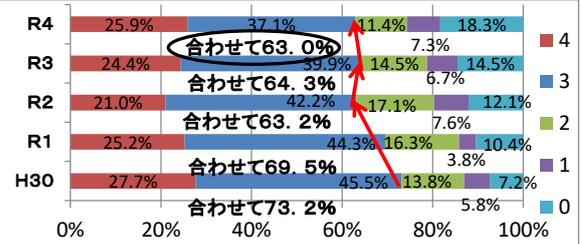
コロナ禍3年目、昨年から一転して今年は急増、ボランティアの募集も復調の兆しがある。
 できることから、できるだけ、生徒個人がそういった意識があれば、数値は上がる。
 「そう思わない」が3.9%、「分からない」も10ポイント近く減っているため、意識はある。
 次年度も積極的に参加し、全体の意識が高まれば言うことはない。

＜項目22＞××本校は国際理解教育(異文化理解)や国際交流に努めていると思う



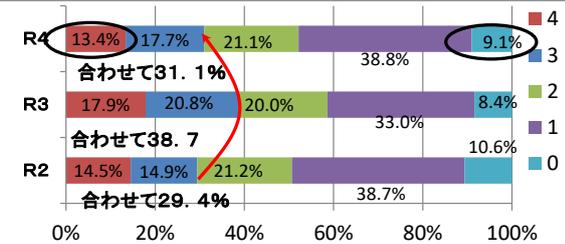
本校の大きな強みの一つがこの「国際交流」関係であるのだが、ポイントの下落が顕著。姉妹校との交流、吹奏楽部の音楽交流・海外遠征がストップしてから随分となるので、「分からない」35%は盛んだったことさえ知らないという数字の表れでないか。コロナが落ち着くの待つだけではなく、できることを実践する。体験者を増やす。

＜項目26＞△学校は女子校らしい学校づくりに努めていると感じる



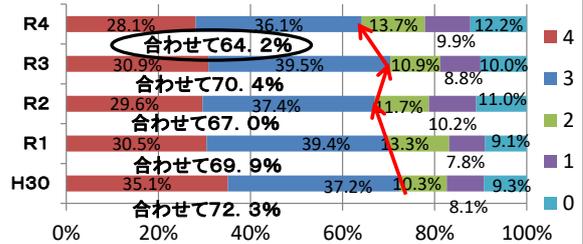
大きな変化はないが、質問の文言自体がナンセンスだという指摘をした生徒もいた。施設設備、各学校行事、生活指導…、改めて「建学の精神」・女子教育の視点を職員全員で確認する必要があるように思われる。本校教育の根幹はブレないようにして、ダイバーシティへの取り組みも意識していきたい。

＜項目23＞×朝の読書や一日一詩などにふれることによって、図書館を利用した



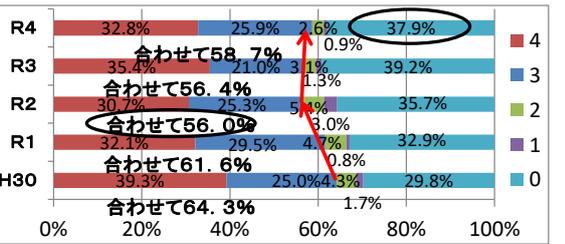
一日一詩は3月までの取り組み、質問文を変えていないところに指摘が入った。すみません。各学年の取り組みで、図書館HRを導入していても惨憺たる結果となったのは残念。ICT導も重要課題ではあるが、本校では、まず「読み・書き・計算」ではなからうか。最近の大学入試問題、読解力がないと問題文の意味が分からない、解けないのループ。

＜項目27＞この学校に入学してよかったと思う



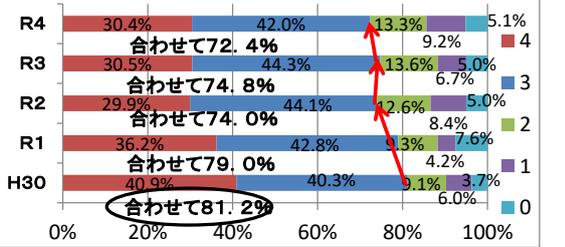
昨年、生徒肯定感「④+③」の減少に歯止めをかけていたが、ふたたび減少した。これは、学校への信頼感や満足度を表す。保護者満足度・生徒満足度は特に私学では重要な視点。私達は、今一度、様々な場面での「自分の責任」を点検したい。満足度を上げるものになっているか、説明責任を果たしているか。

＜項目24＞スクールバスは安心・安全に運営されていると思う



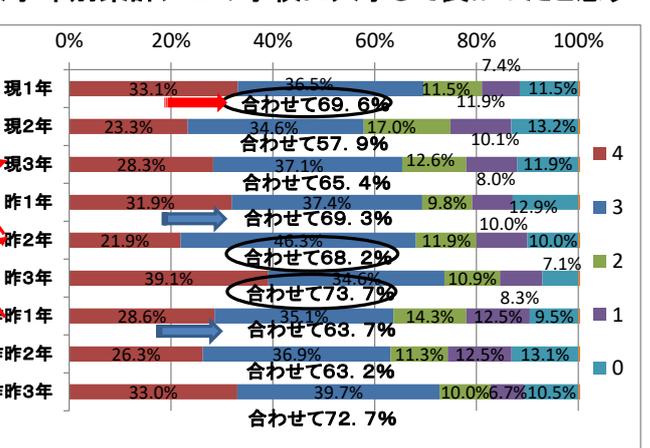
やや持ち直した!安心・安全」。利用すること名に生徒が一定数いるのははかたがない。ドライバーの方々の運行記録、チェック項目は以前よりも負担が多くなったが、清掃はじめ大切に管理されている。生徒たちも大事に乗ってほしい。時間も守ろう。100%を目標に安全運行に努めたい。

＜項目25＞●学校が明るく楽しいと感じる



過去3年間での肯定感「④+③」17割強で足踏み状態。コロナ禍で色々な制限があったところと比べれば、随分と学校行事も戻りつつある。在校生が「学校が楽しい」と思うことこそがいちばんの生徒募集、生徒増に繋がる。8割に戻すためには、何を仕掛けるか、何が出来るか、ということ各自自問、実行する。

＜学年別集計＞この学校に入学して良かったと思う



満足度を学年ごとに細かくみると…

- この3年間を、「1年生満足度」で比較してみると今年の1年(現1年)が一番高い。特に昨昨1年生(現3)は、6月新学期の厳しい1年間であった。2年生に限定して比較しても、今年の2年生の満足度が高いようである。
- 現3年生満足度(65.4%)↓昨2年生(68.2%)↑昨昨1年生(63.7%)例年とは異なる結果となった。(昨年までは2年生↓、3年生↑が平均的)コロナの影響が大きかったことが考えられる。全学年の満足度を8割に伸ばしたい。

生徒・保護者の満足度をいかに引き上げるか、どう説明責任を果たすのか…我々職員全員で考えるべき課題である。

顧客満足度・説明責任!